

図書館だより

1989. 11. 1

第11巻 3号

通巻111号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library

夜の林檎

秋の代表的果物といえば林檎だろう。店頭並んでいる林檎はどれもみな美しい。その美しさをとらえたのが、橋本多佳子の次の句である。

星空へ店より林檎あふれをり 多佳子

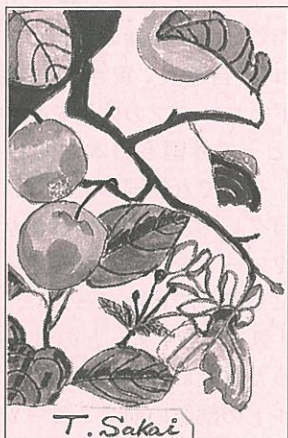
夜の店頭で輝く林檎が、いっせいに星空にむかって羽ばたいていくような躍動感がここにはある。たしかに夜の林檎は地上の星といってよい。

夜の林檎をよんだ句で、もう一つ忘れがたいものに次の句がある。

月光の林檎の前に^{ひら}く胸 兜子

関西の前衛俳人、赤尾兜子の句だが、これは林檎の持つ官能美をよんだ決定版ではあるまいか。月光を浴びた林檎の前で、女が胸をひらく。林檎は乳房とてあうことで官能美を高め、逆に乳房は林檎を前にして、その官能美が浄化されている。

どうして女は胸を披いたのか。月下の林檎の美が、女自身の美の自覚をさそったからだ。「月光の



月光の林檎の前に^{ひら}く胸
兜子

菱川善夫

彩時記

秋

ことの葉



林檎」にはそれだけの力がある。

林檎の持つエロスの浄化力は、林檎が聖書に登場することを考えあわせても納得がいくだろう。それを自覚的にとりいれたのが、島崎藤村の有名な「初恋」の詩である。

やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへしは
^{うすくれないる}薄 紅の秋の実に
人こひ初めしはじめなり

恋人に林檎を手わたす少女と、それを受けとる少年は、旧約聖書創世記のアダムとイブに原型がある。林檎は聖書とともに、明治になって日本に入ってきたのだ。

林檎と聖書——これが林檎のもつもう一つの側面である。だから、兜子の胸を披く女性も、娼婦のマリア、マグダラのマリヤを、そこに重ねて読むことがゆるされる、というわけである。

(ひしかわ よしお 図書館長・教養部教授)

時遊人モーツァルト 200年の旅

……地球への夢言花

月もっと平和を

僕が地球を離れてから200年。久しぶりに見る地球は一変してしまった。

馬車は車に変わり、飛行機が空を飛び室内にはテレビや電話がある。人間の夢の実現とはこんなものかと驚くばかりだ。

でもこの200年の地球をふり返ると、地球人は必ずしも幸福だったとは言い難い。この2世紀の間に大きな戦争があった。

19世紀初頭にはトルストイが「戦争と平和」の中で描いたようにナポレオンのロシア遠征はヨーロッパの「音の花園」をすっかり踏みあらしてしまった。

20世紀になって戦乱は一層拡大した。「第1次・第2次大戦」は人々の良心を喪失させてしまうほど狂気じみていた。



もっと自遊をそして時遊を

今地球はようやく平和を取り戻したかにみえる。とは言え「核戦争」の危険は新しい地球の難題となった。

天文学者によれば地球の寿命はあと50億年という。僕はわずか35年しか生きられなかったが少なくとも地上の人達は今や1世紀を生きるところまで来たのだ。

たしかに「自遊の代償」は大きい。僕がもっと長く生きるためにはハイドン先生のように人生をゆっくりと生きる必要があった。「一介の楽士」としてザルツブルクの宮廷に仕えていればもっと多くの曲を残すことが出来ただろう。

僕の眼からみれば、地球人はあまりにも「働きすぎ」ているのではないか。もっと「時間のゆとり」をもつならばこの世の平和も実現するだろう。



もっと音楽の花園を

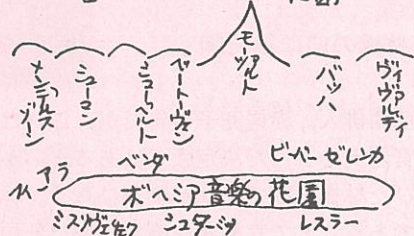
このような「自遊人」と「時遊人」が平和をつくるだろう。そのためには地球人は「音楽」という共通語を話す必要があるだろう。

「音楽の泉」は「平和の泉」に通じている。ヴィヴァルディやバッハの音楽。ベートヴェンやハイドンの音楽。シューベルトやメンデルスゾーンそしてシューマンの音楽には「永遠の平和への願い」がこめられている。こうした音楽家たちの峰々のすそ野にはあのボヘミアの音楽家たちの花園がある。今こそ彼らの「平和な花園」を聴き直す時だ。

にもかかわらずボヘミアの音楽家たちの音楽はFMを通しては伝わってこない。

ザルツブルクにはボヘミア出身のビーバーがいた。彼の「ロザリオのソナタ」は僕が生れる以前に作曲された「平和への祈り」となっている。

音のアラスヒボヘミヤの花園



// 苦夏あれば楽冬あり //

一世紀型人間の時代

—— もっとモーツァルトを ——

モーツァルトはわずかに35年の生涯だったが現代人は「一世紀人間」になろうとしている。

このかくも「長く短い」時間を地球人がどう夢を持って生きるかが問われている。

人生を4区分したピュタゴラス。やはり人生を4区分したトルストイ。

人生は「春・夏・秋・冬」があるのだろう。「苦夏あれば楽冬が訪れる」だろう。「60歳」から本当の人生が始まるという人もいる。モーツァルトは人生に色彩をそえるだろう。

自遊人寅さんのドイツ語

「ダンケ」

人を助けたことから感謝の意としてウィーン旅行を招待された“自遊人：寅さん”。親しくなった日本人ガイドとウィーンの休日を楽しむ。

寅さんにとって外国も日本も変わりはない“自遊人”だ。それでも帰国してからはボーっと夢みるような日々。「失恋」のせいばかりとはいえない。相棒はウィーンを満喫したがウィーンの雰囲気は寅さんにも例外ではなかった。

旅立つ日「気をつけてね」との言葉に「ダンケ」と思わず言った言葉にあらわれた。

モーツァルトの銅像の前で「モーツァルトってなんだろう」ときく。ほかでもない彼も「自遊人」。

知求 衛星

1791

Mozart 没後 200 年前夜特集

1991

アマテラスがやってくる
——モーツァルト時代のために——

パリとプラハの間

—— 回想のロマンティック街道から



モーツァルトとアウグスブルク

父はアウグスブルクからやって来た。モーツァルトのルーツはアウグスブルクにある。

「フッガー家の遺産」(諸田 實・有斐閣)によれば豪商フッガー一家はイタリアの富豪メディチ家をはるかにしのいだという。

モーツァルトが生れる 200 年前に当主が「貧者の一灯」として建てたのが「フッゲライ」だ。そこにモーツァルトの先祖が住んでかろうじて生きながらえた「フッゲライ」はモーツァルトを世に送る源泉ともなったといえよう。

ロマンティック街道の中心にあるこのアウグスブルクをモーツァルトは何度か通り抜けた。

特に思い出されるのは「第 2 次パリ旅行」の折、母に伴われた青年モーツァルトの旅。

彼は母をパリで失い、マンハイムでは恋人にふられてしまう。傷心の彼を助けたのはアウグスブルクにいる「いとこ」だった。

ノーベル賞は自遊人から

—— アインシュタインとモーツァルト ——

最近でこそちらほら日本からノーベル賞受賞者が出るものの大半は欧米に偏っている。

「なぜだろう」とたずねた大臣がいた。しろうと眼には日本人の学問への「自遊性」の欠如と映る。

「宇宙は膨張する」の発見でノーベル賞をもらったハッブルは法律を専攻して軍務についてから望遠鏡のとりこになり、10 年間観察を続けて一大法則を発見した。

アインシュタインの場合は一層「自遊性」が目を引き、「死とはモーツァルトを聴けなくなる」と言うくらいのモーツァルト好きだった彼は、青春時代にベルン特許局の勤務を終えると仲間とモーツァルトを演奏した。「相対性原理」の発見はその当時のものである。

「ノーベル賞で語る 20 世紀物理学」(講談社・ブルーバックス)はその一つの回答の書でもある。

X+Y+Z=成功

X…仕事
Y…余暇 (=モーツァルト)
Z…沈黙

この木残して

—— サイクリングロード物語 ——

原始林へ通じる白石サイクリングロードに橋がかけられることになった。この夏信号をまっ一本の木陰によると「この木残して」という札がぶらさがっていた。子供の字だった。

これでまた酸素が減ると私は思い、子供は遊び場が減ると思った。

工事は始まり一本の木は消えた。かくて地球の酸素は失われ、炭酸ガスは充満する。ここからよいアイディアが生れるだろうか。

モーツァルトの時代にはいたるところ森があった。今その森が枯れている。森は音楽をうむ源泉でもあった。サイクリングロード物語から。

本気で読もう

『自己組織性』

—— 社会理論の復活 ——

今田高俊著 1986 (創文社)

大月 博司

高度情報化社会、ネットワーク社会などと、今後の状況を描写する用語が次々と生み出されているが、それでも現代は、価値観の多様化などを背景に、今までに経験したことのない先の読めない状況に突入している。

本書は、かかる現代状況において、自己組織性の観点から、来るべき社会を構築する理論づくりを意図したものである。自己組織性ということばは、本来自然科学系の用語であるが、著者はこれを、社会理論の発展系譜にのせて用いている。それは、システムが環境と相互作用するなかで、自らの構造を変化させ新たな秩序を形成する性質を総称する概念である。そして、自己言及とゆらぎの相互作用からなる自己組織化プロセスによって新たな社会の構築が試みられるのである。別の観点からいえば、効率と合理性を優先する「機能」の論理に代わる人間社会の「意味」の論理を構築することである。

本書はかなり難解であるが、それだけに知的興奮を得るところ大である。ちなみに、本書は組織学会高宮賞及びサントリー学芸賞を受賞している。

(おおつき ひろし 経済学部助教授)

『心の小琴に』

星野英一著

昭和62年 (有斐閣)

須田 晟雄

今回、「本気で読む本」という内容で書評の依頼を受けて、正直なところ大変困惑した。筆者にとって「本気で読む本」は、法律専門書か論文にかぎられ、それ以外は睡眠薬の代用品として読んでいるのが実状であり、日頃の専門馬鹿がこのような場面で露呈するとは思ってもよらなかったからである。

ここで紹介する上記の書は、学生諸君にとって比較的肩肘張らずに読めるもので、筆者が夢中になって読んだ一冊と受けとめてほしいと思う。本書は、一般的には随筆集と目されるものであろうが、著者自ら認められているように、独特の切味をもつ評論集と見るのがその内容に相応しいと思われる。とくに、法律相談所雑誌——学生のサークル誌と思われる——に登載された学生向けのものに逸文が多い。「我妻先生のことなど」での Auch-Professor と Nur-Professor の論争は、身につまされる。「まことを求める心のレゾナンス」に語られている真の師弟愛には、風貌に似合わず涙腺の弱い筆者は涙を禁じえなかった。「推薦状の季節」や「電車の中より」では、社会的接触関係のなかで他人に配慮する心が強調され、このこと自体は当然のことであるが、それが本書全体に一貫して通ずるカトリック倫理観のあらわれとも見られて興味深い。我妻先生の「民法と五十年」と併読することをすすめたい。

(すだ あきお 法学部教授)

新着図書 —— 経済

最新日本経済キーワード 経済企画庁/十五年戦争極秘資料集 20 海軍法務資料 不二出版/北海道経済の地平をさぐる 北海道大学放送教育委員会編/日本の地域構造 3, 4 大明堂/経済原論 日高普/西洋経済史 神武庸四郎/ケインズ「一般理論」の形成 R. カーン/現代経済学 6 宇沢弘文/一般経済史 長岡新吉/日本経済史 -幕藩体制の経済構造- 岡光夫/近代日本の経済 -統計と概説- 長岡新吉/計量経済分析の考え方と実際 刈屋武昭/アダム・スミスの自然法学 -スコットランド啓蒙と経済学の生誕- 田中正司/21世紀へのエネルギー展望 資源エネルギー庁編/国際経済論 -世界システムと国民経済- 柳田侃/現代社会政策論 中原弘二/基本マスター社会政策 石畑良太郎/経営学の基礎知識 小川英次/経営学 中村常次郎/現代経営論 今井俊一/会計学 森川八洲男/新所得税教科書 昭和63年版 牟田口實/税理士試験合格答練シリーズ 中央経済社/現代管理会計論 天野恭徳/現代商業学 橋本勲/現代工業経済論 坂本和一

気楽に読もう

女性が薦める4冊

「自然にドキドキ」

菊屋奈良義 著 白水社 1988

著者である菊屋氏は、子供時代を九州の自然の中に過ごし、今もこよなく田舎暮らしを愛するという、自然共存人間である。本著は、其の様な生活から大きく懸け離れてしまった現代人の為に、自然保護問題をも含めて、もっと広い意味での人間と自然との共存法を手ほどきしてくれる、気楽な読み物である。大分弁の口語調で書かれたところも面白く、その道では「九州に菊屋あり」とまで言われている、彼の人となりも良く表われており、紅葉美しい秋にこそ、是非読んで貰いたい一冊である。 (Ki)

3 F 開架 (404_{K129}) にあります。

「ウォーター・メソッドマン」
(文学の冒険シリーズ)

ジョン・アーヴィング 著 国書刊行会 1989

「ガープの世界」は読みましたか？ ここで紹介する「ウォーター・メソッドマン」は、ジョン・アーヴィングが「ガープの世界」で一躍ベストセラー作家になる前に書いたものです。大人になりきれず周囲の人間を傷つけつづけた男が大人になろうと悪戦苦闘するコミカルでシリアスな青春小説です。

とにかく、まだアーヴィングを読んでいないあなた一度手にとって試して下さい。アーヴィングの虜になる事うけあいです。当館のアーヴィング中毒患者約2名が仲間のふえるのを楽しみに待っています。「ガープの世界」「ホテルニューハンプシャー」「サイダーハウス・ルール」「ウォーターメソッドマン」どれも当館所蔵中。さあ、あなたは何かから読みますか？ (M)

「花の手帖」

—カラー写真と文献例でつづる花の歳時記—

尚学図書・言語研究所編 小学館 1988

春の花「福寿草」から始まって、冬の花「水仙」で終わる花の歳時記。春・夏・秋・冬の目次とは別に植物名の総索引が付いていて使いやすい。季語・異名あり。写真は鮮明で適度の大きさ。見ていると楽しい。見出し語の下に漢字がカッコに入っているので少しお利口になるかも。

あしび・あせび (馬酔木)

はりえんじゅ (針槐) = にせアカシヤ (Acacia)

うこぎ (五加木・五加) 等々…… (Ku)

3 F 開架 (470₃_{Sh95}) にあります。

NHK世界手芸紀行①
ニット/レース編

NHK取材班編 日本放送出版協会 1989

世界に知られるニットやレースは、どのような人々の手で作られ、伝えられてきたのでしょうか。

北海に浮かぶフェア島の羊たち、ヨーロッパ宮廷文化の華麗な側面を垣間見せる古いレースの数々。気の遠くなるような時間をかけて、丹念に編まれた伝統の手芸を人間・風土・文化から、グラフィカルにまとめた本です。

編む夢と情熱を駆りたてる伝統の様式で、超大作セーターやレース編みを始めてみませんか。

ニットは製図・編み込み模様図案付き、レースは実物大型紙・組織図付きです。 (H)

'88~'89

人気作家の本

今、一番売れている本

吉本ばなな TUGUMI 中央公論 '89/3 ^{913.6}_{Y91}
10月28日ロードショー

同 キッチン 福武書店 '88/1 ^{913.6}_{Y91}

同 うたかた/サンクチュアリ 福武 '88/8

^{913.6}_{Y91}
藤堂志津子 マドンナのごとく 講談社 '88/5

^{913.6}_{To18}
まきの・えり 「ブツ」 講談社 '88/3 ^{913.6}_{Ma35}

村上春樹 ダンス・ダンス・ダンス 上・下 講
談社 '88/10 ^{913.6}_{Mu43}

五木寛之 雨の日には車をみがいて 角川 '88/
6 ^{913.6}_{I91}

景山民夫 遠い海から来たCOO 角川 '88/3

^{913.6}_{Ka18}
新井 満 尋ね人の時間 文藝春秋 '88/8

^{913.6}_{A62}
野田知佑 川を下って都会の中へ—こぎおろし
エッセイ— 小学館 '88/10

高杉 良 小説・日本興行銀行 角河書店 '88/
5 ^{913.6}_{Ta54}

A・ストルガツキ 月曜日は土曜日に始まる
群像社 '89/3 ⁹⁸³_{Sc8}

H・F・セイント 透明人間の告白 新潮社 '88/
6 ⁹³³_{Sa22} (とまと)

アジアが今トレンドイ!

カンボジアからのヴェトナム軍の撤退や、マルコス前フィリピン大統領の病死、今、世界の目はアジアに向いている。そこで、文学でもアジアに注目してみたい。タイミング良く、株式会社めこんより、**アジアの現代文学シリーズ**が発刊中である。不安定な政治情勢、NIESとしての台頭、良い意味でも悪い意味でもアジアは活気に満ちている。そんな背景の下、アジアの作家達は精力的な活動を続けているようだ。やはり面白い小説を生み出すには緊張感のある環境が必要なのだろうか? 現在のアジアを理解する為にもこのシリーズは是非読んでみたい。秋の夜長はアジアの文学で!

マニラー光る爪/レイエス, エドガルド. M. (フィリピン), 残夜光/苗秀 (シンガポール), タイ人たち/ラーオ, カムホーム. (タイ), わたしの戦線/シン, カーシーナート. (インド), メコンに死す/パナースワン, ピリヤ. (タイ), 二つのヘソを持った女/ホワキン, ニック. (フィリピン), スンダ・過ぎし日の夢/ロシディ, アイブ. (インドネシア) など。

新着図書 — 法律

岩波判例コンパクト 64年度版/憲法 2 芦部信喜著/アメリカ憲法入門 松井茂記著/行政法総論 広岡隆著/地方自治の法理と改革 成田瀬明著/国家補償法 阿部泰隆著/知的所有権 -Q & A 100のポイント- 小野昌延著/図でわかる民法 総則 物権 債権 親族・相続 鹿毛継雄著/口述民法総則 石田喜久夫著/リーガル・フローチャート式 民法の読み方 LEC 東京リーガルマインド著/商法 3 落合誠一 [ほか] 著/国際判例研究 3 横田喜三郎著/国際法 山本草二著/海洋法 上 小田滋著/刑法と近代法秩序 竹田直平著/間接正犯の研究 大塚仁著/犯罪学 1 長岡龍一著/演習民事訴訟法 鈴木正裕 [ほか] 著/口述刑事訴訟法 上 光藤景皎著/雇用関係法 下井隆史著/企業倒産の法理と運用 棚瀬孝雄著/近代イギリス政治思想史 山下重一編著/オムブズマン制度の比較研究 小島武司編/裁判・紛争処理の比較研究 上, 下 M. カベレッティ編

道産子 読本



—— ほかいどうの本抄

3. 作家だって地方の時代!

今、巷では時代小説がブームだそうである。そう言えば、TVの時代劇もひと頃の不振を抜けて上昇カーブに乗り始めたかの様にも見える。この現象の発端は昨今の東京ブーム(江戸ブーム)に由来しているらしい。時代小説といっても、その時代背景(戦国時代、江戸時代、明治・大正時代など)やジャンル(剣豪物、忍者物、市井物など)があってバラエティに富んでいる。そのブームと北海道関係図書とどういふ関係があるのか? 実は、深い関係なのだ。そのブームの一端を担っている“子母沢寛”が北海道ゆかりの作家、しかも旧制北海中学校出身なのである。何だそれだけの関係かと言われそうだけど、北海出身と聞いたら親近感を持って、読みたくなりませんか?

子母沢寛: 新選組始末記、遺臣伝/富士見時代小説文庫、逃げ水(上・下)/徳間文庫、勝海舟(1)~(6)/新潮文庫、新選組物語、よろず覚え帖、ふところ手帖(正・続)/中公文庫、父子鷹、鴨川物語/中央公論社、昼の月/六興出版、など。

北海中学出身の作家の作品では他に和田芳恵: 和田芳恵全集(1)~(5)/河出書房新社、接木の台/河出書房新社、一葉の日記/福武書店、寒川光太郎: 密猟者、島木健作: 日本文学全集45 島木健



作・武田麟太郎集/集英社、島木健作全集全15巻(欠号あり)/国書刊行会、本郷新: 彫刻の美/中央公論美術社等を揃えています。

北海学園大学関係では、数年前に斉藤由貴の主演(第1回主演!)相米慎二監督で映画化された「雪の断章—情熱」の原作者・佐々木丸美さんがいるし、伝奇・SF小説作家の荒巻義雄氏も工学部卒業生である。図書館ではこれからも北海道にゆかりのある作家の作品は収集していきたいと思っています。ご意見ご希望がありましたら最寄りの図書館員までどうぞ。

北海道関係 — 新着図書

アイヌの里 二風谷に生きて 萱野茂著/町村金五伝 北海タイムス社編/女の秘湯[1], 2 サーモン出版編/北海道植物歳時記 一野の花に寄せて— 荒澤勝太郎著/北海道の自然 ヒグマ 犬飼哲夫 門崎允昭著/アイヌ語は生きている —ことばの復権— ポン・フチ著/北海道百年 上, 中, 下 北海道新聞社編/一六四三年アイヌ社会探訪記 —フリース船隊航海記録— 北構保男著/チッタピラの森の学校 永田洋平著/ザ・ヤマベ —Fish on Hokkaido—, 続, 続続 総北海道/レントゲンの生涯 —X線発見の栄光と影— 山崎岐男著/稲の日本史 上, 下 山田国男 [ほか] 編/原色北海道のきのこ図鑑 仁和田久雄著/玄冬 一句集— 冬々句會編/北海道博物館ガイド 北海道博物館編/北海道経済を考え直す —活性化をめざして— 伊藤俊夫編/きのこのハナシ —菌類の世界の不思議— 仁和田久雄編/庭で作る北海道の草花 —花壇作り・ベランダ栽培— 荒井道夫著

書遊録

現代大学生の 「知的生活」データ'87 「大学生の読書生活」 を読む

最近の大学生の読書事情はどのようなものであろうか？ 大学生の読書生活実態調査として定評のある全国大学生協連刊「大学生の読書生活〜'87第2回大学生読書生活実態調査報告書」から、大学人として興味深いデータを拾い読みしてみました。

1日の読書時間→平均49分 '84に比べ7分の減
読書平均冊数：1カ月→4冊 1年→26冊
書籍平均購入冊数：1カ月→7冊 内訳；教科書2.5冊 文庫2.5冊 その他（単行etc.）1.9冊
諸メディアとの接触時間：1日平均；ラジオ・テープ 97分、テレビ・ビデオ 105分 マンガ・雑誌 30分、新聞 26分

印象に残った本の著者 Best 5：①司馬遼太郎②夏目漱石③遠藤周作④村上春樹⑤山岡荘八
感動した本の著者 Best 10：①夏目漱石②三浦綾子③司馬遼太郎④太宰治⑤吉川英治⑥遠藤周作⑦灰谷健次郎⑧武者小路実篤⑨モンゴメリ⑩ヘルマン・ヘッセ

感動した本の書名 Best 10：①こころ②竜馬がゆく③人間失格④塩狩峠⑤三国志⑥赤毛のアン⑦風とともに去りぬ⑧車輪の下⑨大地⑩氷点⑩友情
感動した本を読んだ年齢：平均16歳 小学校時代12% 中学 18% 高校 34% 19歳以降 14%
読んだ動機：「店でみて」や「書評」などより友

人・先生・家族など“人のすすめ”が多い。
授業や先生とのかかわり：大学の先生から読書のアドバイス（読書方法や本の紹介）を受けたことがある学生→53% その内、63%→読書の動機づけになった。推薦された本を購入した学生は41%で平均2冊。

雑誌購入：1カ月→平均3.4冊、1,170円
定期購入誌No.1；コミック誌 時々買う雑誌No.1；生活情報誌 趣味誌；コンピュータ・音楽・バイク・車。あなたはこのデータをどう解釈しますか？
(酒)

図書館展示会のお知らせ

平成元年9月～11月末まで下記のテーマで展示中です。ぜひ、ご覧ください。
テーマ：「教科書のあゆみ展 ～教科書にみる日本教育史～」(図書館きかくNo.6)
場所：自由閲覧室一階

ポスター

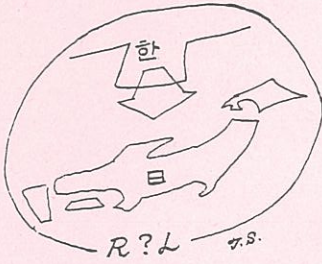
教科書のあゆみ展
～教科書にみる日本教育史～

としよかん展示企画 No.6 期間：9月～11月末
一階書庫1F

教科書研究：古代～近世
 命小生の教科書：江戸時代～ 題詞往来、千字文
 文明開化の教科書：明治0年代～ 模範時代～ 西洋事情
 明治10年代： 国語調査をめぐり、教科書の国文化へ
 明治期教科書研究小史
 明治25年～： 教科書指定時代～ 国定第1期本
 明治35年～： 国定教科書時代～ 国定第2期本
 明治43年～： 国定教科書時代～ 国定第3期本
 大正8年～： 国定教科書時代～ 国定第4期本
 昭和8年～： 国定教科書時代～ 国定第5期本
 昭和10年代： 戦時教科書時代～ 国定第5期本
 昭和20年： 戦後の教科書
 戦後の教科書： 昭和20～平成1年

新着図書 — 工学

情報調査ハンドブック 谷口早吉／小学館ロベール仏和大辞典／北海道大学新聞 1-4 大空社／昭和史全記録 Chronicle 1926-1989 毎日新聞社／都市を読む地域を診る 一都市診断学一 服部銚二郎／化学のドレミファ 1-10 米山正信／物理のドレミファ 1-6 黎明書房／One Point Science 6421-6460 日経サイエンス社／広域汚染と環境政策 菅原正孝／超電導：夢の実現 1989 日本ビデオロード Video Tape/AI(Artificial Intelligence)総覧 フジ・テクノシステム／日本語 MS OS/2 ハンドブック —PC-9800[シリーズ]— 船本奨/Ver.4 MS-DOS版 N88—日本語 BASIC コンパイラハンドブック 戸内順一/TURBO Pascal ハンディ・マニュアル 河西朝雄／日本語PC-COBOL ハンディ・マニュアル 菅野篤/Ver.4 MIFES ハンドブック 島谷明男／はじめてのエディタ —WordMaster MIFES RED ++FINAL 石田綾子／現代世界のグラフィックデザイン —World Graphic Design Now-5 講談社／2061年宇宙の旅 A.C. クラーク



ことの葉 グルメ記

— 外国語こぼれ話 —

R, Lとヤバい話

大江 敏 美

RとLの発音では皆さんも苦労していることと同情しています。読み書きはさておき、会話とかスピーチのときに、R (L) で始まる単語がくると、Rice (こめ) とLice (しらみ) の悪名高い混同のようにヤバいことにならないだろうかと、不安になるものです。特に、ドイツ語、ロシア語の場合、Rは特有の振動数と波形をもっておりますので、英語よりも大変です。幕末の日本人も大変困ったとみえて、ロシアを表すのに中国語の俄羅斯 (eluoosi) からヲロス (ウオロス) 又はヲロシヤ (ウオロシヤ) を取り入れたものと考えられます。俄のeはエの口の構えでオと発音する、オともアともつかないあいまいな母音です。帝政ヲロスは革命でソ連 (蘇聯) となりましたが、現在ペレストロイカが順調に進まず、消費生活はそれ以前にもまして悪化し、民族紛争の激化と複合しヤバい状況になる可能性があります。

下記は、韓国のR (L) 処理とヤバいなど韓国起源と思われる隠語についての話です。

韓国語と日本語は、文法と漢字を共有していますから、韓国でも日本におけると同様にR (L) では困っているはず。事実、ラ行で始まる単語では、R (L) を省略するか、Nで置き換えています。盧泰愚大統領は、英文表記ではRoh Tae Wooですが、韓国語ではノ・テウと発音します。秘密訪朝で逮捕された韓国外語大学生ミス林秀卿はLim Soo Kyongです。Im Soo Kyongとする

外電もありますが、それは韓国語の発音がイム・スキョンッだからです。李さんはイさん又はMr. Leeです。韓国の北方の国では、R (L) が単語の始めにきても、それを省略しないし、韓国でもラジオなど外来語の語頭のラ行音は省略しません。

ここで考えてみたいのは、チョンガ、トッポい、パクル、ヤバいなどの隠語についてです。古代の中国、朝鮮 (チョソン)、日本の社会では、未婚男性が顔の両側に垂直に角 (つ) のように結髪したものを絳角と書きました。この発音はtsongchiao (中国)、chonggak (韓国)、sohkaku (日本) です。韓国のチョンガが未婚者も表すことから日本におけるチョンガのルーツになったと考えられます。トッポいは「見栄えする、引き立つ」という韓国語トッポイダに語源があると思われます。パクルは広辞苑では「食べ物にばくつく、店先の商品を掠め取る、逮捕する」とありますが、韓国語のパクダが「取り替える」となっていますので、パクルのルーツは韓国にあるようです。最後に「ヤバい」ですが、広辞苑では歌舞伎脚本「韓人漢文手管始」を引用し危険なさまの隠語として「ヤバ」を挙げています。ここからヤバいのルーツは玄海灘の向こうにあるとする説があるのです。

最近、万葉集の難解不可解な字句を韓国語で解説を試みた本がベストセラーになっています。ハングルが読めると、これらの本もより楽しく読めます。(おおえ としみ 教養部教授)

教養 — (新着図書)

ブックページ1989 ブックページ刊行会/日本アルマナック — DATE&MAPS ビジネス情報大事典 — 1989 教育社/英語基本形容詞・副詞辞典 小西友七/ひとりで学ぶフランス語会話ハンドブック 安田悦子/図説日本の仏教 1 座右宝美宝社編/倫理学とはなにか 訓覇曄雄/アイヌ史 資料編1 北海道ウタリ協会アイヌ史編集委員会編/地球の歩き方48—52 地球の歩き方編集室/幕末期の英 国人 — R. オールコック覚書 — 増田毅/ペレストロイカ M. ゴルバチョフ/教養の生物学 — 生 命現象の理解のために — 福留祥子/物理学概説 上, 下 小谷正雄/アニマル・ウォッチング — 日 本の野生動物 — 安間繁樹/自然にドキドキ 菊屋奈良義/フランス語を12の3 内藤陽哉/日本 近代思想大系 16, 17 岩波/日本人のルーツを探る 東京理科大学/選挙報道と投票行動 — 1986 年7月衆参同日選挙の調査研究 — 東京大学新聞研究所/宇宙からの情報とその解説 東京理科大学 /石狩湾 — 大正デモクラシーを生きた母と子の物語 — 井尻正二/鏡のなかの日本語 — その思考 の種々相 — 坂部恵/グリム童話 — 子どもに聞かせてよいか? — 野村滋/南方熊楠日記 4 八 坂書房/ジャン・コクトー全集 8 東京創元社/ヘッセ全集 10 新潮社

江戸小紋

画と文 國 田 祐 作

中野重治の小説に「萩^{はぎ}のもんがきや」というのがある。萩の町を歩いていて、ふと見るともなくのぞいたガラス戸越しの、そこが仕事部屋になっている薄明かりの中で、女の人が一心に着物の紋を描いている。女の人^{おとな}の白い顔にすっと通る鼻すじが高すぎるのが作者の気にかかる。あれはひょっとしたら、長い年月うつむいて紋描きの仕事を続けたために、高くなったのではないかと作者は思案するのである。

能登の輪島で漆塗りの仕事を見たことがある。漆器の大店の二階が仕事場になっている。「ご自由にご覧下さい」という案内で私は二階に上がった。そこは低い天井の薄暗い仕事場で、長手方向に並んだ仕事台を前に10人ほどの職人が坐って、明かり窓を背に木地に漆を塗る工程を繰り返していた。私は足音をしのばせていたのだけれど、ふと動く影の気配に何人かの職人が目をあげた。それは咎めるほどの目ではなかったが、私は憚ってそこを離れた。職人たちの顔色は一樣に青白かった。そしてみなうつむいて仕事をしていた。ここから、あの沈金の深い光を湛える輪島塗りが生まれる。私たちは作り手が誰であるのかを知らないでいる。

学生のころ、ネクタイのデザインをすることに

なった。江戸小紋の染色家が伝統的な柄とは別に、新しい図案を求めていた。

学生課から手渡された地図を頼りに私はその家を訪ねた。新宿から三つほどの私鉄の駅近くにその家はあった。ネクタイの型紙にポスターカラーで図案を描くこと。結び目と胸元に図案のポイントを置くこと。採用した分に図案料を支払うこと……。「ようござんすか」と初老の染色家は歯切れのいい江戸コトバで説明した。図案料は1本250円であった。

私はサロン・ド・メイふうの図柄を描いた。それは戦後はじめて接したパリ画壇の流れで、解放感あふれる色彩と機知の表現は日本の画家たちを強く刺激したものだ。しかし私の図案はほとんど採用されなかった。獲物のない駆け出しの狩人の気持を何度も味わった。それは口がにがく乾く。私は気付いた。仕上がりがいかにも泥くさく、“作品”以前なのだ。色を混ぜすぎて発色が鈍る。上にのせた色に地色が滲んでくる。色が“泣く”のだ。最低限、材料の扱い方を覚えなければモノにならないのである。料理は半煮えではいけない。うまい、まずいの判断はその先からはじまる。サロン・ド・メイもあったもんじゃない……。

材料に手慣れてから採用分は少しずつ増えた。ある時などは、休暇の前日、徹夜で描いた図案の

としょかん用語集(3) — 目録カード3点セット

本がどこにあるかを知る手がかりは「目録カード」を引くとよい。

目録カードには3種類がある。

一つは「著者目録カード」。著者がわかっている時に引くのに便利。

第二は「分類目録カード」。これは「本のところ番地」順にならべられている。「民法」ならひとかたまりになっていて類書をさがすのに便利。

もう一つは「件名目録カード」。これはキーワードで類書を探す。著者も分類もわからないときライブラリアンもよく利用する。

目あての本を引いたらあとは「請求票」に必要な事項を書いて窓口へ持ってくれば出してくれるという仕組み。

和書の3点セットは2階に。洋書の「著者」「分類」は3階にある。



京都 八坂・三年坂

5本が5本とも採用された。そのまま旅立つ積りの、私の絵の具箱入りのリュックサック姿にたぶんハナムケの気持が湧いたのかも知れない。1年ほど続けたあと、私は辞めることにした。漠然と、馴れてはいけない、という気分からだった。記念にとその染色家は私自身のデザインのネクタイを染め上げて贈ってくれた。私はそれを小包にして

遠くの友人に送った。「……これから帰っておれは早速誰かに手頃な小包を一つ送らねばならぬ」という中野重治の詩に誘われたのだった。

中村勝馬という、私の通った江戸小紋の染色家が伝統工芸の人間国宝にえられたのは、その後間もなくのことである。

(くにた ゆうさく 教養部教授)

書繁期と書閑期の間

9月は試験で本がよく利用されました。今年较去年にくらべて増加しています。

「閲覧冊数」では3,549冊増(34%増)、返本冊数の配本も含めた「総配本冊数」は3,943冊増(33%増)。いずれも9月の実績です。

10月に入って「書閑期」。この時期は次の「試験期」に向けて「本を整える」時期。新しい本が棚に入りましたのでご利用ください。

9月利用指標 '88-'89比較

	'88	'89	増減	%
閲覧冊数	10,385	13,934	+3,549	34
返本数	1,438	1,832	+394	27
総配本数	11,823	15,766	+3,943	33

宇宙を感じながら***第3回

楽天
星

「美しい！」

岡崎 敦 男

この夏、海王星に接近したボイジャーが、私たちに数々の映像を送ってきてくれた。初めて見る海王星の素顔に、多くの人が神秘的な美しさを感じたのではないかと思う。僕はまた、それらの人々の多くが「海王星の美しさは夕焼けの美しさとは異質である」と感じたのではないかと勝手に推測している。例えば、夕焼けを見て「大気中でレイリー散乱によりふるい分けられた光が対流圏に発生する雲に反射した後、私の網膜に衝突し光電効果を起こしたのだ。これらは全て電磁相互作用というただ一種類の力により引き起こされている。自然界に見られる調和の何とすばらしいことか。」と考える人はまずいないはずだ。

しかし、海王星の姿には「どうしてこのような惑星が存在するのだろうか」という疑問を感じさせる力がある(ような気がする)。このような疑問は自然法則の美しさへの入口である。何かにつけこの手の疑問を感じてしまう人の心は自然(=宇宙)に向けて開かれている。自由な時間は歳とともに減少するが、思考力は歳とともに増大するので、自然法則の美しさに触れる最良の機会が学生時代に訪れるのではないだろうか。

学生時代、僕ら物理系の学生を最も感動させたのは、ランダウ・リフシッツ理論物理学教程「力学」(東京図書)の中の記述である。そこでは、時間の一様性からエネルギーの保存則が、空間の一

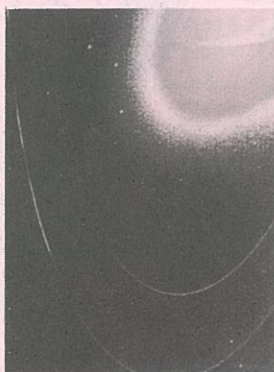
様性から運動量の保存則が導かれると明解に断じられている。つまり、エネルギーが保存されるのは時間が一様に流れるからであり、動いている物がそのまま動き続けようとするのは空間のどの場所も全て平等だからだ、と言うのである。自然法則は、自然界(この場合は時間と空間)の持つ対称性に由来する! ファウスト博士ならずとも「美しい」と叫んでしまうところである。

僕らがこのような美しさに触れることができるのは、しばしば絶望に陥りながらも研究を続けてくれた先人のお蔭である。以下は、ドイツ留学中、研究に行き詰まっていた朝永振一郎が師仁科芳雄から励ましの手紙をもらったときの日記の一部である。

「センチだけれどもよんでなみだが出てきた。いわく、業績があがると否とは運です。先が見えない岐路にたっているのが吾々です。それが、先へ行って大きな差ができたところで、あまり気にする必要はないと思います。(中略)せいぜい運がやってくるように努力するよりほかはありません。」(「わが師わが友」(講談社学術文庫))

宇宙の片隅のことを研究しているに過ぎない僕のような者にも、この言葉は50年の歳月を超えて励ましを与えてくれている。

(おかげさあ かつお 教養部講師)



Voyager 2 Shot
海王星のリング
(NASA 提供)

編集後記

▲記録的な猛暑が続いた平成元年の夏も終り、今、北海道は晩秋から初冬の季節を迎えています。▲夏が長かったせいか秋は本当に「あっ」という間に過ぎて行った気がします。▲「食欲の秋」も過ぎようとしているこの季節、食べ過ぎた人も我慢した人も次は「読書の冬」にしてみませんか。▲その時、この「図書館だより」が少しでも読書欲の刺激に役立てば幸いです。

北海学園大学附属図書館報 図書館だより

Vol.11No.3.(通巻111号)

本館 〒062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号
工学部分室 〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
☎(011)841-1161
本館内線 270~275・279
工学部内線 813・814